

成人向

月  
下  
げ  
の  
む

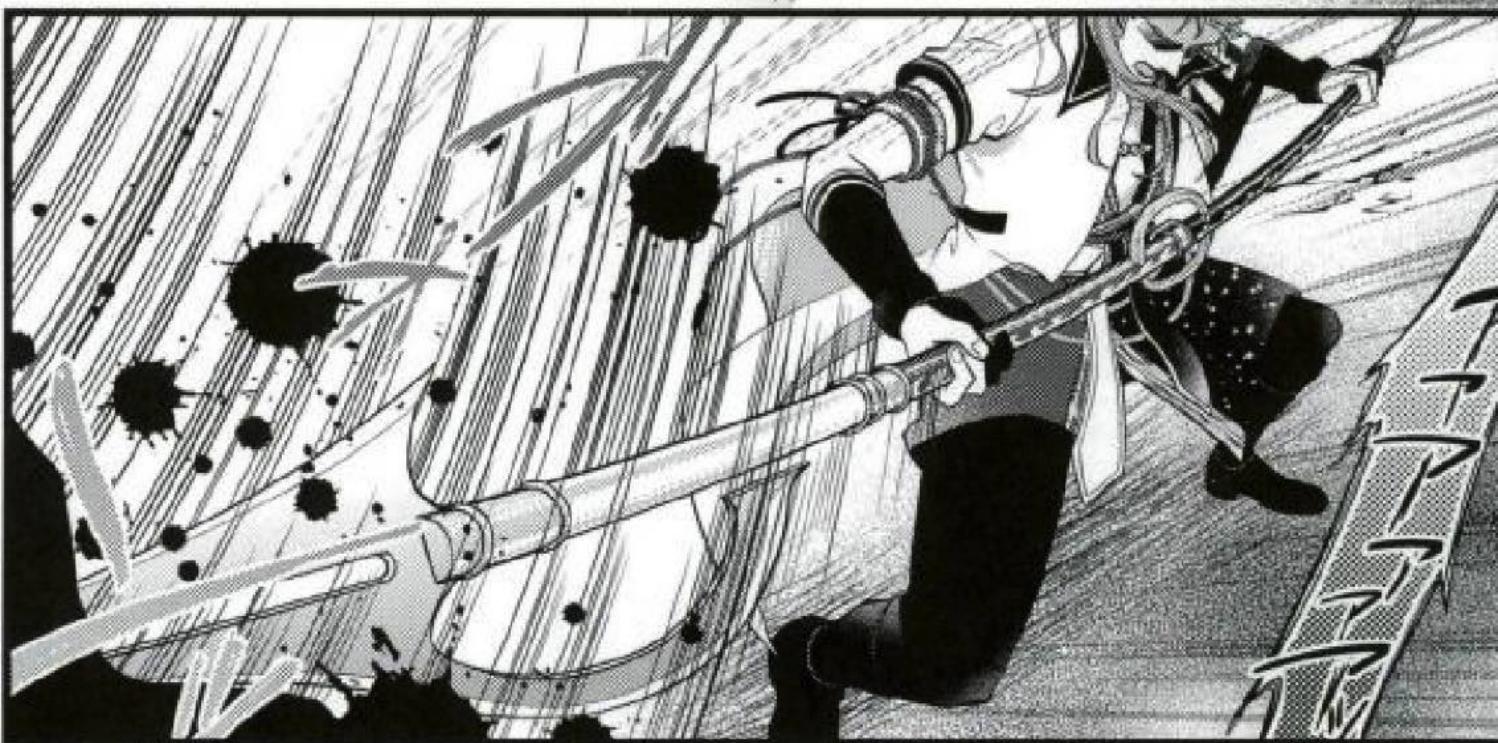
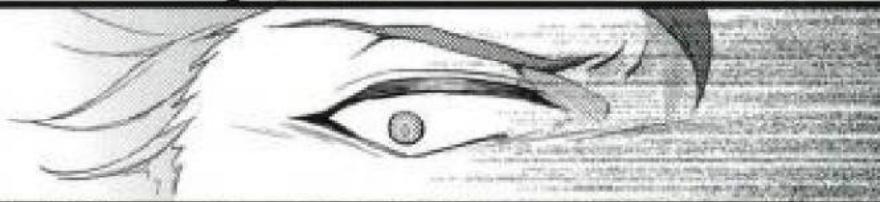




やいその背中は  
さしひく  
つも

大きい

とても強くて



崩れ落ちるのを見たのは

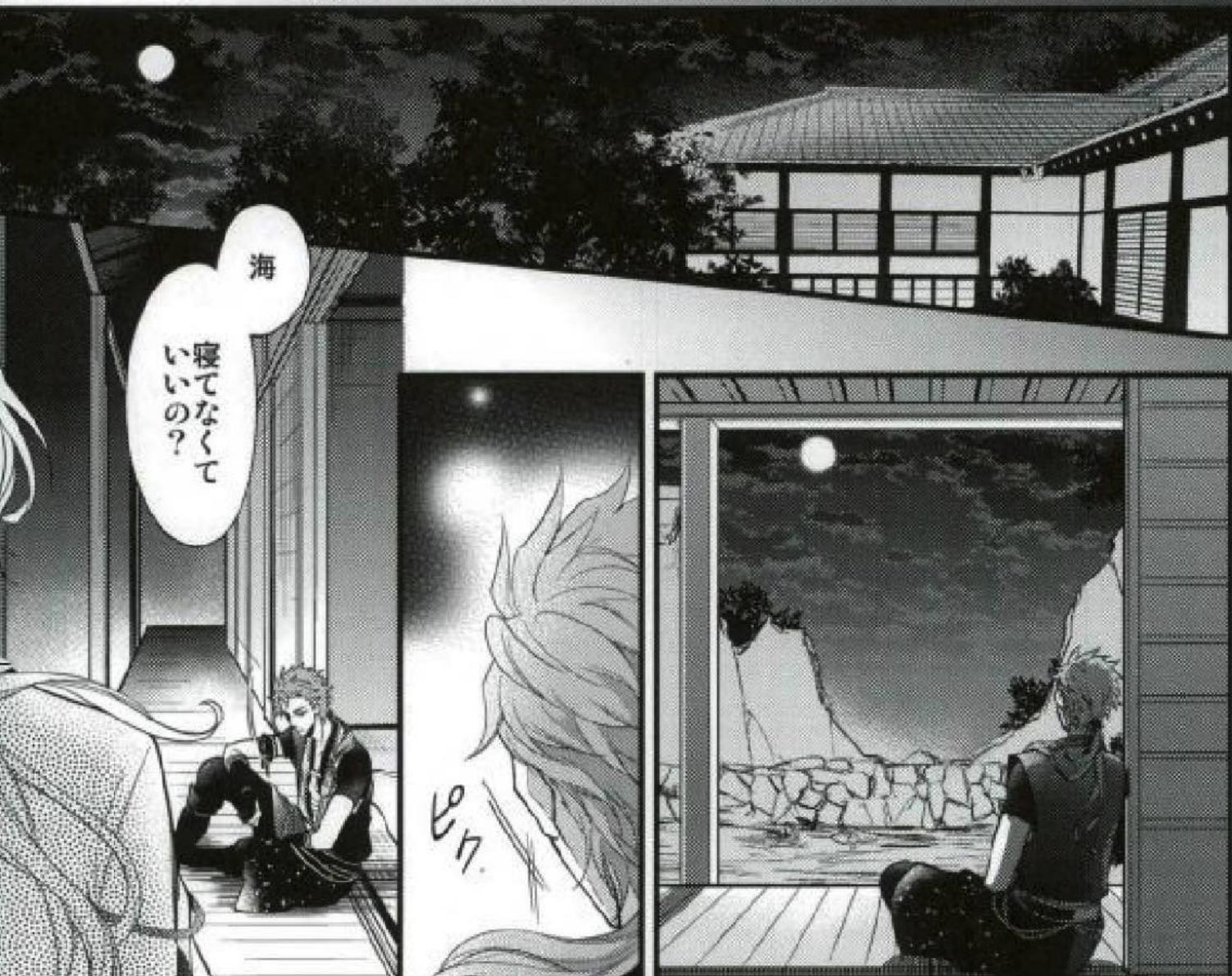
はじめて

頭を殴られたような

つそ  
よくは

べやひ

# 衝撃











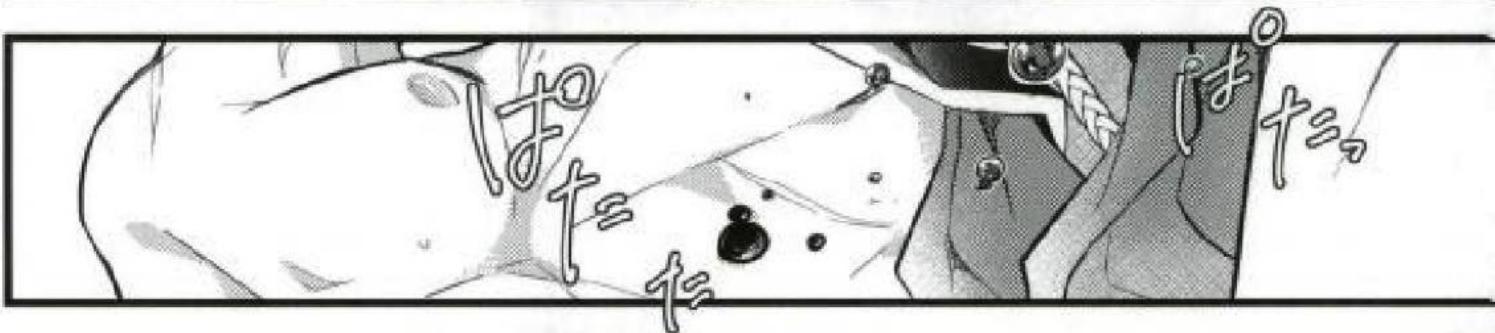
ちょっとやそっとじゃ  
壊れないよ

加減なんぞか  
できねえぞ

そうか

う  
う  
あ









お前にも

見せるつもりは  
なかつたのに

うん

ごめんね

うれしい

海が俺は

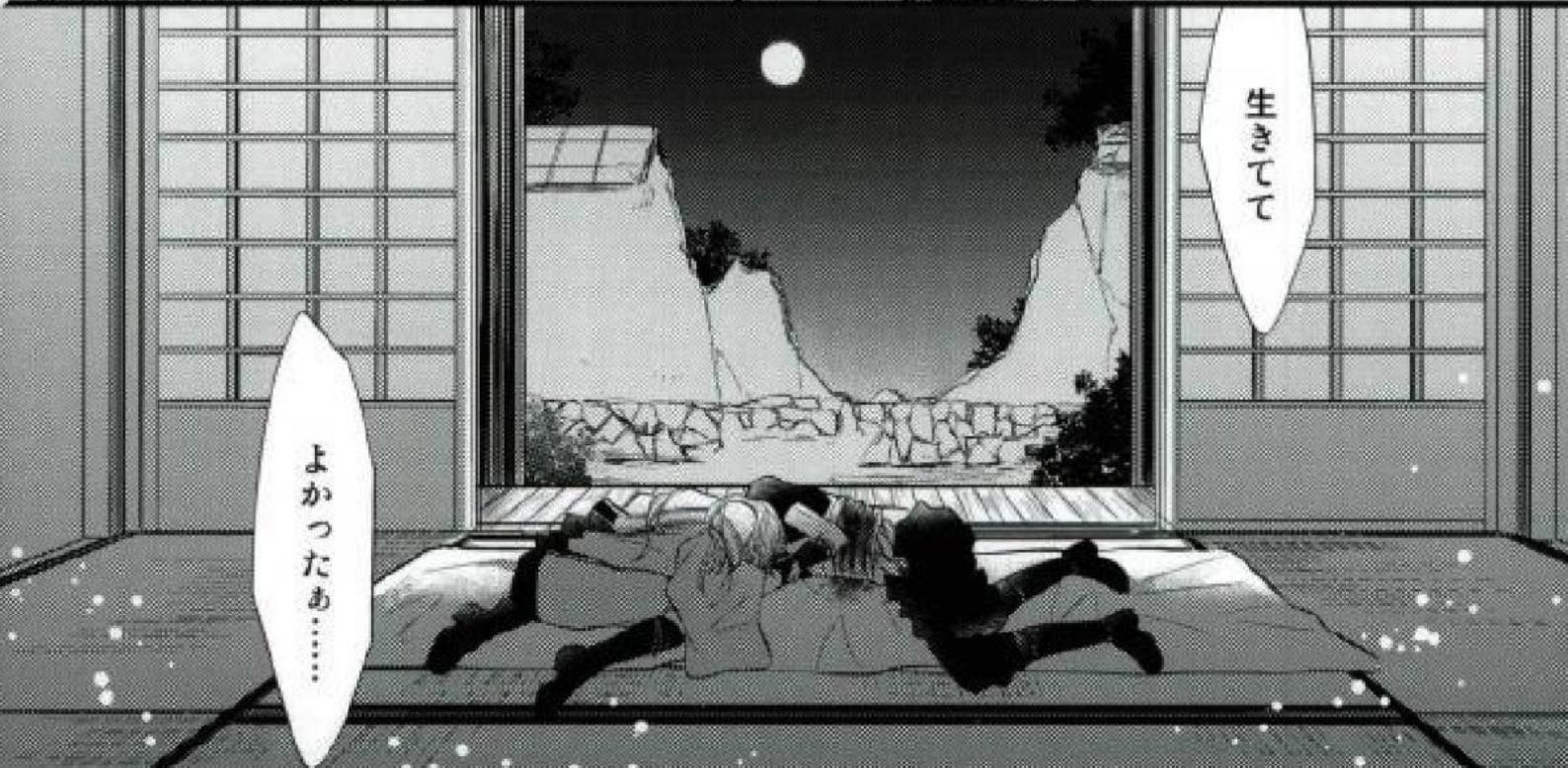
不安と痛みで  
分けてくれてを

そーかよつ

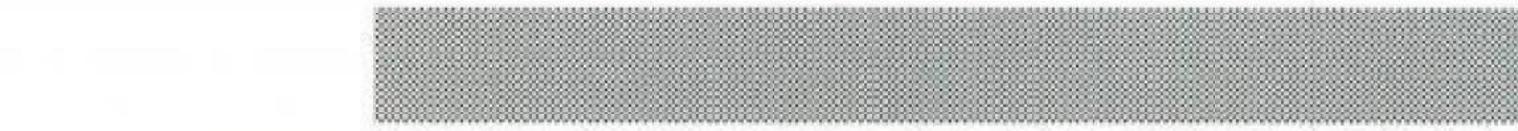


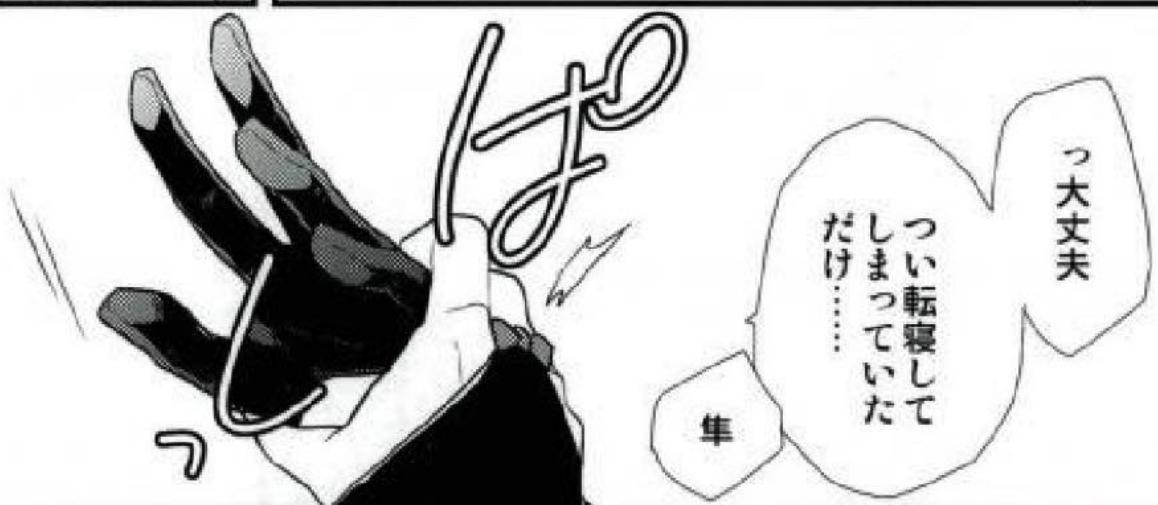






月  
は  
る





：情けない話  
なんだけれど：  
力が少し  
足りないんだ

僕と始の存在は  
この世界にとつて  
異分子だと  
言つたでしょ？

それをこうして  
留め続けることに…  
思つたより消耗  
してしまつていね

足りない  
…？

お前  
そんな状態で  
海の治癒も  
したのか！

つ本当は  
完治させられる  
はずだつたんだ！

な…

…お前

ねえ始…  
みんなには  
黙つていて  
僕がこんなじや  
不安にさせて  
しま…

ふざけるな!!



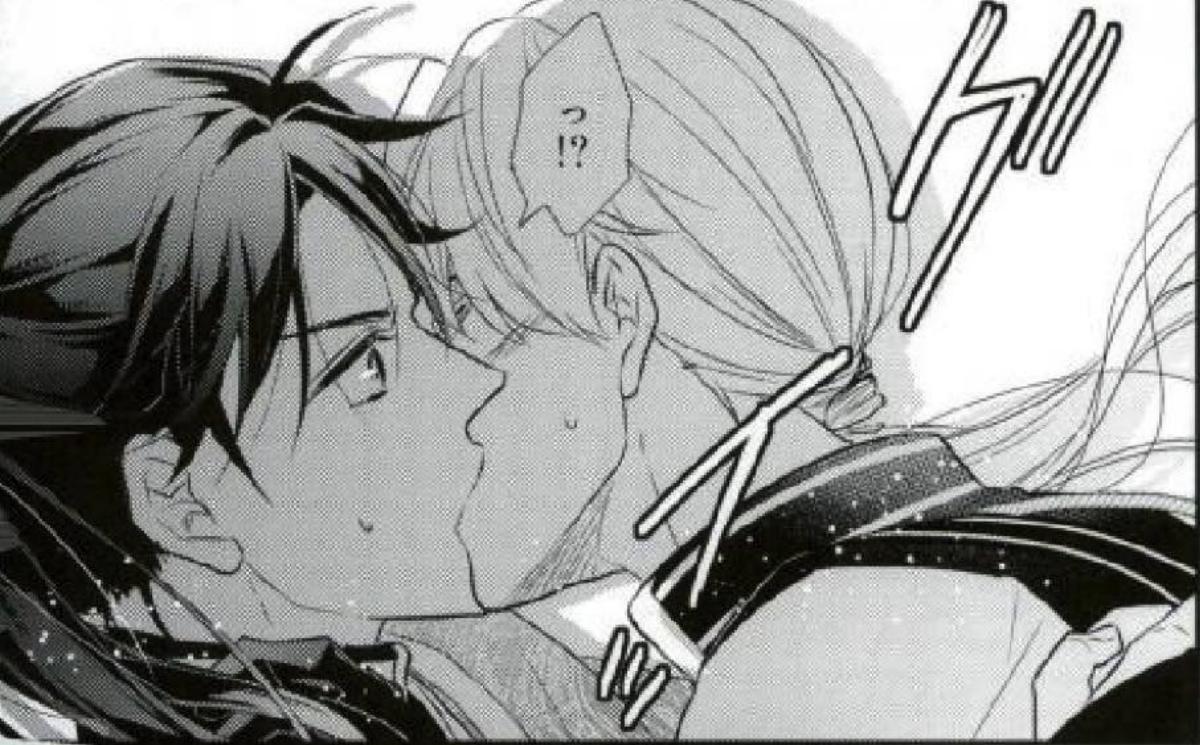


ひとりで何とか  
しようとすると  
じやねえよ！











…もつと

もつと  
ちょうどい…？

ミツ

い  
い  
あー

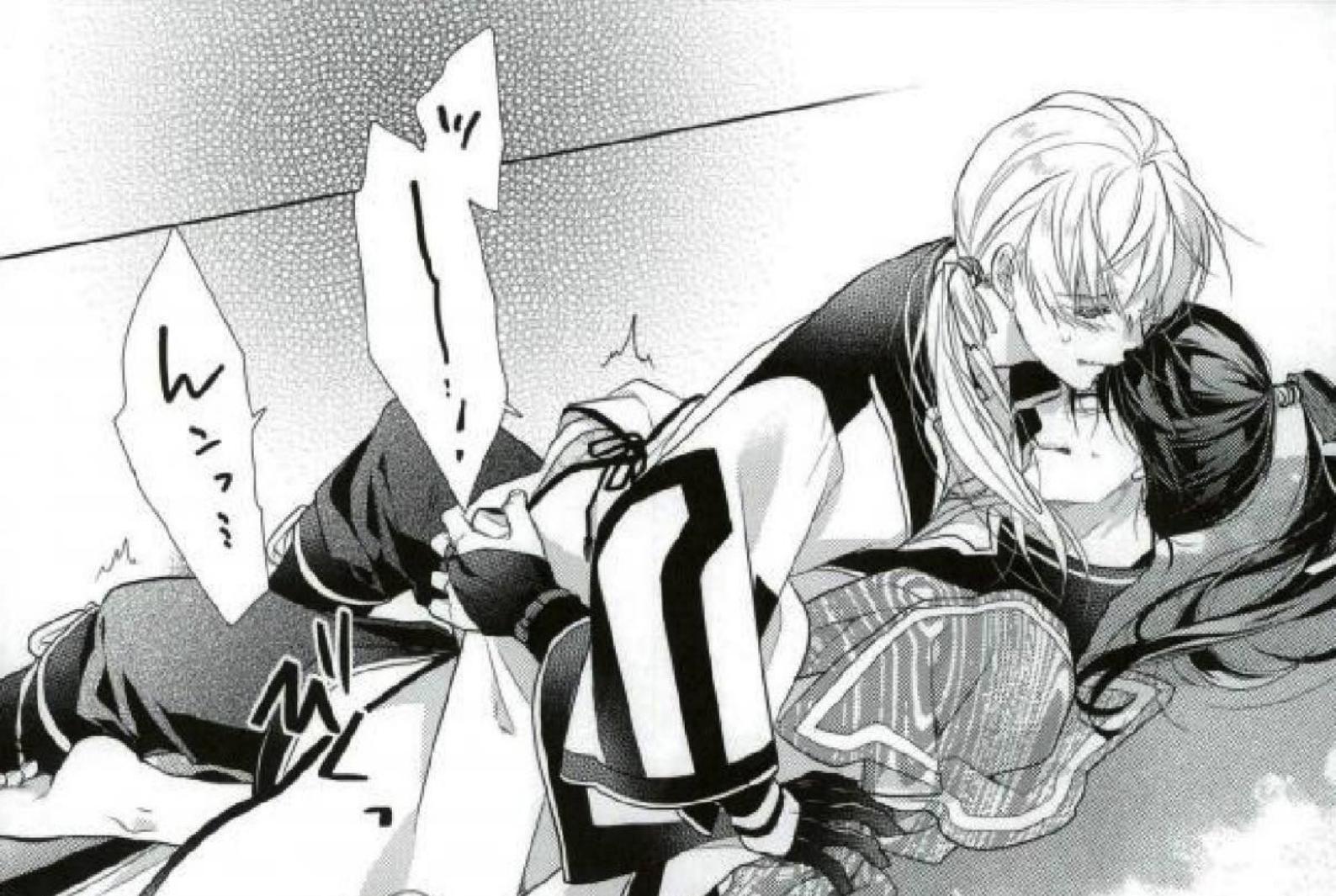




はじめ

はじめ…っ











ひとつになってしまおうか



うん。  
始は大丈夫?

ああ

落ち着いたか?

ルラ:

ス



俺とお前は  
“対”  
なんだろう?

ごめんね…  
あんなことに  
なるなんて  
思わなくて



だつたら  
俺にも  
背負わせろ

始…  
ありがとう





君がいるから

僕は僕で  
いられるんだ

アンドツク

月始×月隼  
文月海×弥生春

二〇一七五月  
ごみくす

